



照屋 仁士 議員

借金時計の導入を検討せよ

答 より分かりやすい方法を検討したい

※過去のはいさいよーさんを参照

	平成21年	平成24年	平成25年
①各会計合計	159億6887万円	174億6640万円	187億3503万円
②町債残高	151億5968万円	163億6821万円	168億3658万円
③交付税措置額	77億0421万円	86億8823万円	89億4060万円
④実質の借金	74億5527万円	76億7998万円	78億9568万円
⑤基金残高	28億4770万円	27億0197万円	27億3227万円

- ①各年度予算の合計 ②各会計の町債(借金)発行額の合計
③あとの年度で国から措置される補助金
④実際町民が負担する借金 ⑤町の各貯金の合計

問 議会報告会で町の借金や財政状況への不安の声があった。過去の推移等を一目で理解できるよう工夫できないか。

副町長 さらに町民に分かりやすく工夫していきたい。

問 左記の表を提案する。

総務部長 提案されたグラフのような形で表現していきたい。

問 多くの行政需要、インフラ整備、一括交付金への対応など町債の発行額が増えるのはやむを得ない。しかし、借金は減らさなければいけない。なぜ実質の借金を減らせないのか。

総務部長 学校の大規模改修や、法人保育園の建て替えなど交付税の措置がない起債がある。行政需要に対応していくため、償還元金より少なくなるといふ基本が崩れることもある。

問 結果として借金が増えていく事にならない。さまざまな行政改革に取り組んでいると理解している。その意識を示す方法として借金時計を導入し、さらなる財政健全化を示すことはできないか。

副町長 他の市町村の事例も確認した。起債の総額を年、月、時間、分、秒で数字が変わる表現で、分かりやすい。借金時計を含めてより分かりやすい方法を検討したい。

歴史教育の現状は

問 自らが生まれた沖縄県や南風原町がどんな歴史をたどってきたのか、親や祖父母、先祖はどのような生活を送り、今自分たちがいるのか、そこに興味を持てるような教育が必要ではないか。

教育長 それぞれの学校で、地域の特性を活かした学校づくりを行いたい。